

# 狭山ヶ丘分館 図書館だより

お知らせコーナー

ティーンズ版  
第 5 号  
令和 4 年 3 月  
(不定期発行)



『大人かわいい華やか  
カラー切り絵』

平石智美/著 メイツ出版  
《726.9/ヒ》

狭山ヶ丘分館のエレベーターホールの  
窓に、切り絵を飾っています。  
切り絵は少し難しいですが、完成した  
時は本当にうれしくなります。

おうち時間が増えた今、  
皆さんも切り絵に挑戦して  
みませんか。

## 新着資料の紹介

『マイブラザー』

草野たき/著 ポプラ社 《YF/ク》

5歳児の弟・総也の面倒を見る毎日を送っている中学2年生の海斗。保育園の送り迎えや夕食後のお風呂、寝かしつけを担当し学校でイクメンと呼ばれている。あるとき、同じ保育園だった自称「中二病の悩める中学生男子」で元サッカー少年の健吾、不登校ぎみの七菜、私立中学校へ通う彩音と倫太郎の4人と嫌々ながら同窓会をすることになり……

自己主張の強い5歳児に振り回されるなかで自身や周囲の人々と向き合っていく14歳たちの物語。

# CONTENTS (目次)

## ○お知らせコーナー

狭山ヶ丘分館からのお知らせのコーナーです。

## ○新着資料の紹介

図書館で新しく購入した資料など、資料紹介のコーナーです。

## ○特集コーナー

①わたしたちのオススメ本。②渋沢栄一について。

## ○相互貸借について

「相互貸借」という図書館サービスについて。

## ○ティーンズコーナーのテーマ展示

今月のテーマ展示本「新生活にむけて」より本紹介。



## 特集①：わたしたちのオススメ本

ティーンズコーナーのポストに利用者から投稿された『わたしたちのオススメ本』をご紹介します。

### 『七不思議神社』

緑川聖司/作 TAKA/絵 あかね書房 《F/ミ》

七節町に引っこして来たリク。

ある神社に行くとタクミという男の子が木からおちてきた!!

そのタクミからこの町に七不思議があるということを教えてもらい、七不思議をすべて集め、絵馬に書くと願い事が叶えられる。

その願い事を叶えるために、2人で七不思議をさがすお話。2人は七不思議を全てさがす事ができるのか…!?

ペンネーム：GENE が大好きな人



### 『よくわかるネット依存』

遠藤美季/監修 PHP 研究所 《00》

この本は最近コロナの中で外出があまりできないため、スマホやゲームをする機会が増えたと思うので一度読んでみるというと思います。

ペンネーム：こんにちは



## 特集②：渋沢栄一について

2024年（令和6年）に新しい一万円の肖像画となる【渋沢栄一】は、金融機関や電力などを整備することで日本経済の発展に大いに貢献した人物です。ここでは渋沢栄一の偉業の一部を紹介したいと思います。

1840年（天保11年）2月13日武蔵国榛沢郡血洗島村（現在の埼玉県深谷市）で生まれる

1873年（明治6年）大蔵省を辞める  
第一国立銀行（現みずほ銀行）開業、総監役となる

1885年（明治18年）日本郵船会社創立（後に取締役）  
東京瓦斯（現東京ガス）会社創立  
（創立委員、後に取締役会長）

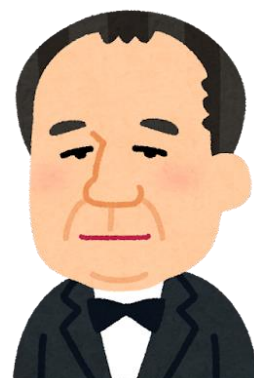
1887年（明治20年）帝国ホテル創立、発起人総代（後に取締役会長）

1906年（明治39年）東京電力会社創立（取締役）

1907年（明治40年）帝国劇場会社創立（取締役）

1931年（昭和6年）11月11日永眠（享年91歳）

2024年（令和6年）新しい一万円の肖像画となる



### 栄一の十代のエピソード

栄一には多くの逸話が残されています。そのうちの一つ、栄一が十代の頃のエピソードをご紹介します。

ペリーが来航した1853年（嘉永6年）、栄一が数えて14歳の時、それまで家業の手伝いをしていた栄一は父親に頼んで、一人で藍葉（染料である藍玉の材料）の仕入れに行きます。当時は10代半ばになると立派な大人として見なされたとは言え、現代で言えば中学生です。農家に出向き、藍葉を買いに行っても、商売相手として見てもらえませんでした。でも栄一は諦めません。幼いころから家業を手伝っていた栄一は、その豊富な知識を生かし、農家にある藍葉の鑑定をしてみわりました。それがあまりにも的確だったものだから、すぐに評判となり、農家の大人たちも喜んで取引に応じ、大量の藍葉の買い付けに成功しました。

官僚（国の政策を決める公務員）の道を捨て、民間銀行の第一号である「第一国立銀行」を作った栄一は「日本資本主義の父」と呼ばれるようになります。農民から日本の近代化に大きな影響を与える存在となった栄一の生き方と精神は、本当に素晴らしいものだと思います。

#### 参考文献

○『お札に描かれる偉人たち』楠木誠一郎/著 講談社 2019年

○『渋沢栄一伝』小前亮/作 小峰書店 2020年

○『渋沢家三代』佐野真一/著 文芸春秋 1998年

参考 URL <https://www.shibusawa.or.jp/eiichi/chrono.html>



## 相互貸借について



「相互貸借」というサービスをご存知でしょうか。

図書館間で、資料を相互に貸し借りする制度のことです。

お探しの図書が所沢図書館に所蔵がない場合でも、予約票に記入して提出していただければ、埼玉県内等の市町村図書館で所蔵している図書をお取り寄せすることができます（※一部新刊制限や貸出制限あり）。

「埼玉県内図書館横断検索」(<https://www.lib.pref.saitama.jp/calil/>)で、埼玉県内図書館の所蔵資料を一括検索できます。

ぜひ、ご利用ください！

## ティーンズコーナーのテーマ展示「新生活にむけて」

### 『ブタカン！—池谷美咲の演劇部日誌—』

青柳碧人/著 新潮社 《YF/A》

高校2年生の池谷美咲は、入院することになった幼馴染みで親友の北条ナナコから演劇部の舞台監督をまかされることになった。家の事情で、バイトをしていた美咲は一年間部活に入ることができなかった。遅れてやってきた青春を取り戻すため、舞台監督の仕事に奮闘する。部員たちをまとめて、支えるのが舞台監督の仕事だが、演劇部は一筋縄ではいかない変わり者ばかりで事件が続出。失踪する脚本担当の先輩、美咲を敵視する後輩。消えた台本、公演会場の火災、美咲は無事に文化祭公演を行う事ができるのか！？

#### ★編集後記★

今号は、2021年の大河ドラマでも話題になった埼玉の偉人「渋沢栄一」の特集をしました。気になった本があったら、読んでみて下さい